

仙台市立病院医誌の再刊によせて

仙台市長 島野 武

ときまさに、新市立病院の開院と、市立病院創立五十周年の記念すべき年に当り、市立病院医誌が再刊されることになりましたことは、まことに意義深く喜ばしい限りであります。

市立病院は、昭和5年2月1日当初本市唯一の社会事業として「医薬の資力に乏しき傷病者を診療す」ということを基本理念として開院されたのであります。以来五十年、半世紀にわたり市民の健康保持増進に寄与するとともに、更には、救急指定病院としてその中心的役割を果し、名実共に仙台市の中核病院として今日に至ったのであります。

これは、五十年の輝かしい歴史における先輩諸氏のたゆまざる努力と熱意に負うところまことに大といわなければなりません。

日進月歩の医学の進歩と医療技術の革新は、直接臨床に当る病院医師並びに看護婦、その他医療技術者の日頃の研究と技術の開発に負うところ頗る大きいものがあり、これがための研究機関誌として本誌の果たす役割もまた大きく、今後の研究開発が一段と推進されることを期待するものであります。

今や、医療事情は重大な転換期を迎え医療資源の効果的活用が叫ばれておりますが、医療需要は更に増大し、また一方では医療の高度化が益々要請されているのであります。

このときに当り、新市立病院の開院を迎えることは、まことに時宜を得たものであり、今後は、市民の信頼に応える立派な病院としてその使命を達成することを切に念願する次第であります。

本誌の再刊に当り、市立病院の益々の発展を祈念してお祝いのことばといたします。